

平成30年度第1回日本一の健康長寿県構想高幡地域推進協議会 議事要旨

- 1 日 時 平成30年10月10日(水) 18:30～19:50
- 2 場 所 須崎福祉保健所 2階会議室
- 3 出席者 ・協議会委員27名のうち22名が出席 ・オブザーバー1名
・医療政策課3名 ・事務局8名

◆委員(敬称略)

○専門団体

- | | |
|-------|---------------------|
| 田村 精平 | 《高岡郡医師会理事》 |
| 菅野 聡 | 《高岡郡医師会副会長》 |
| 土居 詔人 | 《高岡歯科医師会副会長》 |
| 瀧口 英寛 | 《薬剤師会高陵支部長》 |
| 浪上 静香 | 《高知県看護協会須崎・窪川地区支部長》 |

○保健医療福祉関係機関

- | | |
|--------|--------------------------|
| 諸隈 陽子 | 《精神科診療施設》 |
| 安井 渉 | 《国保病院・診療所》 |
| 北川 素 | 《高齢者医療施設》 |
| 森畑 東洋一 | 《小児科診療施設》 |
| 植田 裕次 | 《高幡広域社協連絡協議会》 |
| 高橋 佳代乃 | 《高知県介護支援専門員連絡協議会高幡ブロック長》 |

○地域組織団体・住民の代表

- | | |
|-------|-------------------------|
| 熊田 敬子 | 《須崎福祉保健所管内健康づくり婦人会連合会長》 |
| 戸梶 庄美 | 《須崎地区食生活改善推進協議会長》 |
| 岩崎 良子 | 《くぼかわボランティア連絡協議会長》 |
| 津野 修三 | 《四万十町大正地区民児協会長》 |

○行政関係

- | | |
|--------|------------------|
| 吉本 加津代 | 《須崎市健康推進課長》 |
| 森光 澄夫 | 《須崎市長寿介護課長》 |
| 井上 幸一 | 《須崎市福祉事務所長》 |
| 山本 眞紀 | 《中土佐町健康福祉課長》 |
| 橋田 淳一 | 《梶原町保健福祉支援センター長》 |
| 野村 和弘 | 《四万十町健康福祉課長》 |
| 上岡 啓二 | 《須崎福祉保健所長》 |

◆オブザーバー(敬称略)

- | | |
|--------|--------------|
| 朝比奈 正芳 | 《高岡郡医師会事務局長》 |
|--------|--------------|

議事等概要

- 1 開 会
- 2 須崎福祉保健所長挨拶
- 3 委員紹介
- 4 会長・副会長選出
《会長》田村精平、《副会長》上岡啓二
- 5 会長挨拶
- 6 議事

(1) 須崎福祉保健所の平成30年度重点目標について

【事務局説明】

- ・須崎福祉保健所の平成30年度重点目標

【質疑、意見等】

- (田村会長) 壮年期の死亡率がこの地域は非常に多いということで、特定健診は全国的に行われていますが、受診率等の推移はどのような状況ですか。梶原町は受診率がかなり高いという話を聞いたことがあります。
- (事務局) 平成29年度の受診率になりますが、梶原町については75.4%と高くなっております。県平均については把握できていませんが、管内はいずれの市町も県平均より高い受診率を示しているのではないかと思います。
- (田村会長) 特定健診の受診率と疾病罹患率に相関関係はありますか。生活習慣病から今回血管病に名前が変わっていますが、何か意味があるのですか。
- (事務局) 昨年度、この高幡地域推進協議会の2回目の会で「血管病というのは分かりにくい、言葉を今までと同じように生活習慣病にしてはどうか」というご提案を頂いたのですが、県の担当課に確認しましても、先程説明させて頂いたように、がん対策と区別をして糖尿病と高血圧対策の取り組みを強化するという意味で「血管病」という言葉を使い取り組みを進めているところです。様々なところで説明をさせて頂いているので、県の方としてはこの言葉を使い取り組みを進めていきたいというところです。
- (田村会長) 他に何か質問はございませんか。
- (津野委員) 自殺について、資料には壮年期と70才以上の高齢者の方の自殺死亡率が高いということが書かれているのですが、マスコミで、最近子育て中の女性の自殺が多いと取り上げられておりましたが、管内ではどのような現状ですか。全国的に多いと言われていましたので、この管内も多いようなら対策も必要と思います。管内の状況も調べていただいたらと思います。
- (事務局) 50才代・70才以上が多いということで、人数で言いますとだいたい15人から20人程度ということがございます。しかも、7割程度が男性というような状況になっております。

- (田村会長) 全国平均・高知県全体の1.5倍とかなり多いと思うのですが、一般的な原因としては健康問題やお金の問題、家庭の問題等があるのでしょうか、特にこの地域に多いということに何か特別な理由はありますか。
- (事務局) 高知県は中山間地域が多く、中山間地域については昔から高齢者の自殺が多い傾向にあります。管内の特徴として、壮年期の男性死亡率が他の圏域に比べて高いという統計結果がありますが、原因についてまだ把握しておりません。
- (田村会長) 高齢者の独居というのはどの地域にも多いです。92才の独居の男性が「頭が痛くなった」ということで病院に来ていましたが、帰すわけにはいかないので、入院になりました。「どうやって一人で暮らすのか」と心配しますが、そういった方が結構多いのも事実ですね。

(2) 地域と職域が連携した働き盛りの健康づくりについて

【熊田委員報告】

- ・平成29年度健康づくり推進部会活動報告
- ・平成30年度活動計画について

【質疑、意見等】

- (田村会長) ここでも「血管病」という言葉が出てきているので、一つにまとめた方がよいのではないかと思います、「生活習慣病」という言葉の方がわかりやすいのではないですか。
- 出前健康教室の健康グッズの貸し出しは以前からやっていると思いますが、具体的にどのようなものを貸し出していますか。
- (事務局) 健康グッズの方は、血圧計や塩分濃度計、歩数計等を貸し出しております。
- (田村会長) 体重計はないですか？
- (事務局) 体重計も貸し出しています。
- (田村会長) 今大事なものは体重計ではないでしょうか。受動喫煙対策については、具体的にどのような取組をしていますか。
- (事務局) 禁煙サポーターズとして、健康づくり婦人会の皆さんや保育士さんに禁煙に対する知識等を持っていただき、支援をしていただいています。その他、昨年度は啓発媒体として紙芝居等を作成し、市町や保育園等で活用いただき、啓発をしています。
- (田村会長) 思い切ってこの管内の飲食店は全面禁煙にするとか。そういう事をやった方がインパクトが強いのではないかと思います。
- (事務局) 事業所や飲食店等を訪問させていただいて、「空気もおいしい！認定店」等、受動喫煙防止対策を進めていこうとしています。
- (田村会長) 何か他に質問はございませんか。
- (橋田委員) 平成30年度の活動計画に、血管病対策の推進の中に歯周病予防の推進という項目がありますが、具体的にはどのような取り組みですか。
- (事務局) 高幡地域の歯科保健連絡会を年一回開催しております。この中で働き盛り世代の

歯科保健対策の検討をしています。今後は、特定健診や事業所の健診の場で働き盛りの方への啓発のチラシを作り歯周病対策を進めていこうと考えています。

(橋田委員) どういう関係性があるって血管病対策の推進の中に歯周病予防が入っているのでしょうか。そこを教えてください。

(土居委員) 歯周病というのも一般的に生活習慣病の中に入りますが、病態的には血管病といっても差し支えないと思います。歯科の歯周病の健診については、今まで歯科の健診は18才、高校生で途切れていたことから、途切れの無い健診をやっという取り組みを前々からしていたのですが、やっという形になるのか、というところまで来たところなんです。健診が途切れてしまうと、どうしても口の中が崩壊し、悪い状態となります。歯周病は様々な全身病と関連があると言われてます。

(橋田委員) わかりました。田村会長も言われていたのですが、生活習慣病というところでいくとすっきりくるのですが、血管病となると妙に分かりづらかったので、そのあたりをお聞きしたかったです。どうもありがとうございました。

(田村会長) やっぱり生活習慣病といった方が皆分かりやすい、生活習慣病の中の一部が血管病ですが、血管病に特化してどうこうというよりは、生活習慣病全般についての取組を進めていくことが必要ではないかと思えます。

他に何か質問はございませんか。それでは、須崎地区の食生活改善推進協議会・健康づくりの取り組みについて、会長の戸梶委員からお話を伺いたと思います。生活習慣病にしる血管病にしる、やはり一番重要なのは食生活ではないかと思えますので、どういう食生活を目指しているのか、という取組についてよろしくをお願いします。

(戸梶委員) 一日350グラムの野菜を摂ることなどに取り組んでおります。私は食生活改善推進員の活動と健康づくり推進員の活動もしております、健康づくり推進員の活動の事を少しお話させていただきます。梶原町は受診が約78%、推進員が各地区ごとに1~2名います。推進員が必ず訪問して、一人ひとり必ず手渡しで、その方にお目にかかるまで、夜遅い方は夜に伺って「健診受けて下さい」とチラシを持って行きます。受けられないという方は、その理由を書くようになっていまして、事情があって受けられないという方は、日曜健診など勧奨しています。「別の病院で受ける」と答えた方は「どこで受けるが？」というところまで確認し、保健福祉支援センターに持っていきます。大事なことは、保健福祉支援センターの方が健診当日の事とか、街中ではなく車が必要な所で集団検診があるので、「何時にどこ出発で、帰りも送っていきます」という説明と、男性と女性それぞれの健診当日の服装をイラストで説明し、問診票と一緒に配ります。このやりとりがあるから、皆で声を掛け合って健診へ行くのではないかと思います。

梶原町食生活改善推進委員会では、年間16くらい事業があります。男性の料理教室では、主人にも「友達を連れてきてね」と協力してもらっています。一人で参加しづらいという方は、「奥さんもかまんき連れてきいや」と声かけをしています。支援センターが作った、日時・場所・お金等の情報とイラストが入ったカラーチ

ラシを一人ひとりに配りながら声がけし、募集しています。(実物のチラシを委員に紹介する。)
「楽しくお料理をしましょう」ということで、推進員が75名居ますが、皆が協力して募集します。今年度は小学4・5年生のお料理教室を開催しました。梶原は海の魚とふれあう機会が少ないということで、梶原学園の先生と相談し、魚を解剖するところから、魚屋さんに協力して頂いて、4・5年生と食改さんと一緒に料理をしました。

(田村会長) ありがとうございます。食生活改善推進協議会ということで、栄養面のたんぱく質、脂質のバランスがどうか、そういったことはあまりやらないのですか。

(戸梶委員) 8月31日に野菜の日ということで、梶原町のスーパーの一部分をお借りして、「350グラムってどれくらいあると思う？」とお客さんに計っていただいて、当たった方にはもやしを一袋プレゼントしました。このイベントについても、「今度スーパーでやるから来てね」と推進員がみんなに触れ回ります。実際に計ってもらって、「野菜は1日これくらい摂ってね」と言ってお知らせします。そのときに、梶原町産の食材で作ったなすのピザやあまとうの佃煮、ごま和えとかを試食してもらい、教えています。以上です。

(田村会長) 糖質制限や塩分制限等についてはどうですか。

(戸梶委員) お味噌汁の減塩も毎年恒例になっており、お味噌汁のシーズンが来たら住民さん皆持ってきてくれますし、持ってこられない場合は「〇日に来てね」と声がけをして測りに行ったりしています。

(田村会長) 長野県では町内会レベルで塩分濃度計を持って各家庭を訪問して計測し、指導をしているようですね。

(戸梶委員) うちも自分で持っています。塩分濃度計は保健所でも貸出しをしているようです。

(田村会長) 最近の栄養学の分野では、「糖質の過多が肥満になり、それが血管病になる」という一つの流れが定説になりつつありますので、ぜひ頑張ってくださいと思います。他に何か質問はございませんか。議題2の「地域と職域が連携した働き盛りの健康づくり」につきましては、今後も健康づくり推進部会を核に取り組みを進めて頂けたらと思いますので、よろしくお願ひします。

(3) 高知版地域包括ケアシステム構築の推進について

【事務局説明】

- ・高知版地域包括ケアシステム構築の推進について

【質疑、意見等】

(諸隈委員) 多分、各地域で包括支援センターを中心に色々こういった事をされていたと思いますが、新たにということで、これが全部出来たことですごい良いことだなと思うのですが、今も認知症初期集中支援のことで須崎市地域包括支援センターと定期的に会をしていますが、皆さん大変忙しく、こういったことに取り組むにあたっては、担当している包括支援センターの職員数は増えているのでしょうか。多分、先ほどの壮年期のうつ病も同じですけど、こういった仕組みをつくって

くださる方の協力があることで、私たち現場で動いているところもあるのですが、本当に包括支援センターの仕事内容・ボリュームがすごく増えているのではないかと少し心配なところではあります。もう一つ、認知症の医療間連携が必要というのは具体的にどんな話が出ていたのかを教えてくださいなと思います。

(事務局) まず地域包括支援センターの職員さんの話ですが、今年度四万十町で取り組んでいます。最初に四万十町に話をもっていった時に、やはり包括支援センターも手いっぱいなかなか大変だと、それから地域の見守りについても現在 500 人くらい登録されてるのですが、対象の方はもっといるはずだけれど、なかなか地域に入っていけないというようなご意見を頂いています。

二つ目の認知症の場合の医療間の連携についてですが、まず、かかりつけ医等にかかった時に「認知症の疑いがあるな」という時に、包括支援センターの職員さんからの意見でしたが、ぜひ専門医の方に繋いで頂きたいと思っているし、包括支援センターの方に連絡等頂ければというふうな思いがありますが、なかなか最初にかかった病院から情報がこないという所がある、というご意見でした。

(田村会長) 医師会の方でも、かかりつけ医の認知症対応力向上研修会というのを年に 2・3 回開催しております。かかりつけ医が発見し、それを専門医につなげていくのが非常に大事だと思います。

本年度は四万十町で協議をされており、他の地域についても来年度以降順次、協議を開始するようですが、皆様の日頃の活動の中にも「地域包括ケアシステム」に関連する部分があるかと思いますが、引き続き地域での様々な取組をお願いします。

7 閉会